

「田園空間博物館構想」と「月農会(官民プラットフォーム)」を組み合わせた官民連携の取組

1. 田園空間博物館構想

田園空間博物館とは

博物館へのアクセス

官民連携の基礎づくり

活動例1 — 灌漑開発 —

活動例2 — コメの品質 —

2. 月農会

田園空間博物館、民間連携との関係

3. 官民連携事例

① (株)ケツト科学研究所

穀物水分計

② (株)トプコン

レーザーを使った均平技術

③ (株)唐沢農機サービス&KiliMOL

中古農機

④ (株)太陽油化 & アセンティア

有機肥料(TOKYO8)

2022年2月10日

エチオピア国農業省 農業政策アドバイザー 浦杉

1. 田園空間博物館構想



日本が初めて乗り出す灌漑稲作と、地域が一丸となって高品質のコメづくりをする重要性を説明する日本国大使(写真中央)。大使の背後に広がる緑の空間が博物館構想の舞台。

田園空間博物館とは

建物の中に展示するものとは異なり、地域全体を博物館として様々な農業技術の発信、農民との活動や交流を推進。

11月(コメ収穫期)



1月(タマネギ作)



写真奥が、農民の直営施工で建設したソーラーポンプ場。これにより、乾季の不毛の大地が一面の緑に変わり、一年を通じ、人々の豊かさと生活の安心を感じさせる景観となった。

田園空間博物館とは

博物館は普及員が経験を積む場として、また、研究員が農民の協力を得て、新たな取組を実践する場としても活用。

農民の伝統的な収穫方法の把握



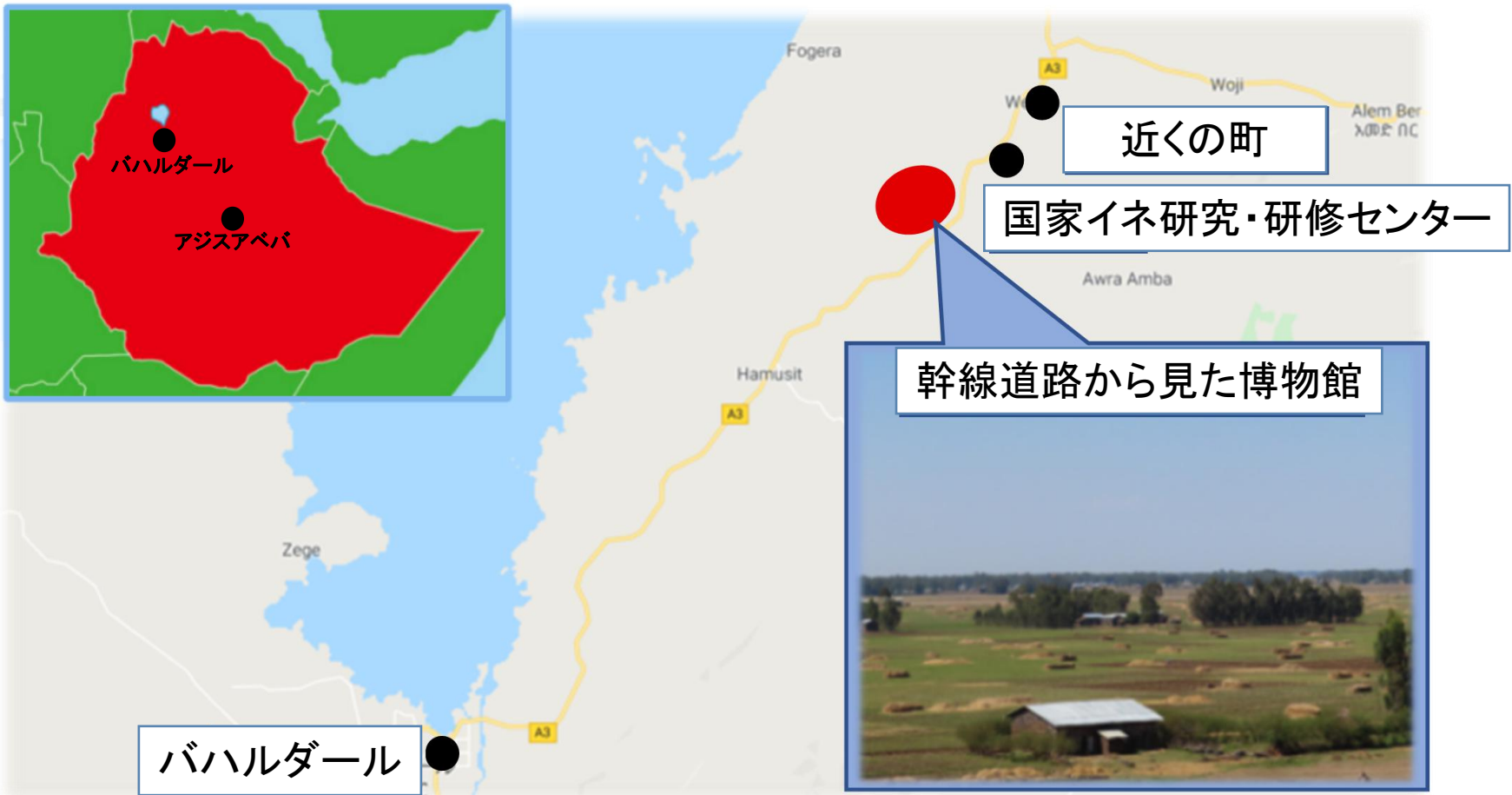
農業機械の実演



普及員、研究者、日本人が、農民と共に活動することで、地域が抱える課題(例えば、作業能率が低い、コメに石やゴミが混入する等)を共有し、新たな取組へとつなげることができる。

博物館へのアクセス

アムハラ州の州都バハルダールより、幹線道路で50分(55 km)、JICA稲作プロジェクト(エチオリス2)の拠点である国家イネ研究・研修センターより5分、近くの町まで10分でアクセスは良好。



官民連携の基礎づくり 活動例1 — 灌漑開発 —

農民主導のソーラーポンプ灌漑事業を通じて、地方政府職員
のサポート体制と農民の組織力の強化を図ってきたところ。



地方職員と、ポンプ場の設計、農民組織
(水利組合)の規約案の作成



工事における農民の負担(労務及び一部
材料)の合意、水利組合設立の合意

官民連携の基礎づくり 活動例1 ー 灌漑開発 ー



人力での井戸掘り



コンクリート練り